

2018 年度 研究所事業報告書

研究所名	白川静記念東洋文字文化研究所
------	----------------

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 年)および 2018 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

1) 学術研究事業 (各運営委員や研究員による個別の研究のほか、研究所として以下の活動を行った。)

- ①第 12 回白川記念東洋文字文化賞の表彰式が 2018 年 5 月 26 日、衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルームで開催された。優秀賞に上野誠氏と松井太氏が選ばれ、吉田学長(当時)以下、多数の参会者の祝福を受けた。
- ②白川研究所と共催による第 51 回日本古文書学会大会が、9 月 8 日～10 日の間、京都府立京都学・歴史館を会場として 200 名近くの参加の下に挙行された。記念講演は、白川賞大賞の受賞者である上島有氏が、白川先生との交流にも触れながらこれを行い、芳村弘道副所長、前田亮研究員がそれぞれ研究報告に当たった。
- ③国際交流活動としては、10 月 5 日から 8 日まで、ドイツのニュルンベルグ・エアランゲンの孔子学院で開かれた第 6 回世界漢字学会に参加した。杉橋所長が次回学会引き受け機関代表として挨拶し、大形徹副所長、名和敏光・山田崇仁・佐藤信弥・張莉の各所員が研究発表を行った。
- ④シヤチハタ株式会社と白川静記念東洋文字文化研究所が協力、甲骨文字と金文を使ったオリジナル書体として「鯨旗+R 甲骨体」、「鯨旗+R 金文体」を新たに制作し、11 月 13 日に東京キャンパスで記者向けセミナーを開催、公表した。
- ⑤2018 年 12 月 8 日には、第五回東亜漢籍交流国際学術会議を衣笠キャンパス存心館で開催した。これは南京大学域外漢籍研究所および韓国の高麗大学校漢字漢文研究所との学術交流協定に基づく催しである。藤本幸夫氏による公開講演の他、中国・韓国側報告者に加え、萩原正樹・詹千慧 2 名の本研究所所員が研究発表を行った。
- ⑥2018 年が白川博士の歿後十三回忌の年に当たることから、これを記念して博士遺贈の書籍・資料類約 1,100 点(芳村副所長が整理)が、本学園に寄贈されることとなり、同上公開講演と研究発表の間に式典が催された。遺品を保管することとなる当研究所長から経緯を説明、ご遺族代表の津崎史様から森島理事長に目録を進呈、理事長からは感謝状が贈られた。
- ⑦2019 年 2 月 24 日にシンポジウム「中国古文字学研究の最前線」を立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームで開催した。戸内俊介氏・西信康氏・落合淳思客員研究員による講演の後、シンポジウムに移り、大形副所長が司会、講演者 3 名に加えて佐藤信弥客員研究員がパネラーを務めた。
- ⑧昨年度に引き続き、白川博士の「文字講話」(DVD 全 24 回)の上映会を毎月開催し、高島敏夫客員研究員が 3 回の連続公開講座を行った。また『研究所紀要 12 号』(2019 年 3 月)、『漢字学研究第七号』(2018 年 10 月)を刊行した。

2) 文化事業

- ①体験型漢字講座「漢字探検隊」を全国 8 府県で 15 回開催し延べ、約 1100 名の参加者があった。「漢字学探検隊」は 2006 年度から全国各地で開催しており、2019 年 3 月末現在で通算実施回数が間もなく 200 回を迎える。
- ②漢字教育士資格認定事業について、漢字教育士認定者数は 2019 年 3 月末で累計 669 名となり、その活動拠点は全国そして海外に広がっている。2018 年度には、静岡県の漢字教育士・古澤英一氏の活動が高く評価され、福井県が主催する「第六回福井県白川静漢字教育賞 最優秀賞」が授与された。
- ③立命館大学が展開している社会人向け学習組織「立命館アカデミックセンター」では、2018 年 5 月から 7 月にかけて「漢字・漢文は東洋のエスペラント」講座を開催した。また東京キャンパスでは、今年も本学卒業の書家である華雪氏を招いて講座を開催し、好評を博した。
- ④産経新聞社との共催による「第 9 回創作漢字コンテスト」は、全国から 2 万 1000 点の応募があり、昨年度より応募総数が 8000 点増加した。
- ⑤立命館学園附属校では、連年教員による「白川式漢字学習法ワーキング」の活動が行われ、『成り立ちで学ぶ漢字ワークシート 35』の第 3 集は、2019 年度に完成の予定である。併せて、ワークシートを用いた授業や iPad を用いた新教材の開発を推進し、「白川静パネル展」を実施した。白川静・白川文字学への関心は急速に高まっている。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2019年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	杉橋 隆夫	衣笠総合研究機構	客員教授	
運営委員	上野 隆三	文学部	教授	
	大形 徹	衣笠総合研究機構	客員教授	
	芳村 弘道	文学部	教授	
	松本 保宣	文学部	教授	
	石井 真美子	文学部	教授	
	萩原 正樹	文学部	教授	
	桂島 宣弘	文学部	教授	
	小椋 秀樹	文学部	教授	
	加地 伸行	衣笠総合研究機構	研究顧問	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	村田 進	文学部	助教	
	中本 大	文学部	教授	
	川崎 佐知子	文学部	教授	
	金津 日出美	文学部	准教授	
	前田 亮	情報理工学部	教授	
	湊 宣明	テクノロジー・マネジメント研究科	教授	
	後藤 文男	大学院教職研究科	准教授 立命館小学校学校長	
	長谷川 昭	立命館小学校	副校長	
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	余 筠珺	アジア・日本研究機構	専門研究員
		富 嘉吟	衣笠総合研究機構	専門研究員
		田中 誠	衣笠総合研究機構	専門研究員
		Biligaikhan BATJARGAL	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	宮本 紗代	文学研究科	博士後期課程 2 回生
		斬 春雨	文学研究科	博士後期課程 6 回生
		田中 京	文学研究科	博士後期課程 4 回生
		猪俣 貴幸	文学研究科	博士後期課程 3 回生
		杉谷 理沙	文学研究科	博士後期課程 4 回生
		池松 直樹	文学研究科	博士後期課程 4 回生
		中西 健太	文学研究科	研修生
		池嶋 美穂	文学研究科	研修生
		稲田 琴美	文学研究科	博士前期課程 3 回生
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)			

その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	山田 崇仁	文学部	非常勤講師 花園大学文学部准教授
	高島 敏夫	文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)
	落合 淳思	文学部	非常勤講師 (白川研客員研究員)
	佐藤 信弥	文学部	非常勤講師(白川研客員研究員) 大阪府立大学
	今場 正美	文学部	非常勤講師
	松尾 肇子	文学部	非常勤講師
	佐古 愛己	文学部	非常勤講師(ARC客員研究員) 佛教大学准教授
	花田 卓司	文学部	非常勤講師(白川研客員研究員) 帝塚山大学専任講師
	谷 昇	アトリサーチセンター	客員協力研究員
	久保 裕之	社会連携課	職員
客員協力研究員	上島 理恵子	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	笠川 直樹	京都精華学園	理事
	名和 敏光	山梨県立大学	准教授
	村上 幸造	大阪工業大学	客員教授
	高田 宗平	大阪府立大学	客員研究員
	吉田 甫	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	大野 裕司	大連外国語大学日本語学院	外籍教師
	松井 嘉徳	京都女子大学	教授
	重信 あゆみ	大阪府立大学	客員研究員
	張 莉	大阪教育大学	准教授
	洲脇 武志	愛知県立大学	准教授
	谷口 義介	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	津崎 幸博	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	臧 克和	華東師範大学、世界漢字学会	終身教授、主席
	高橋 あやの	関西大学	非常勤講師
	増井 寛也	立命館大学文学部	非常勤講師
	末次 信行	千里金蘭大学	教授
	松宮 貴之	佛教大学	非常勤講師
	阪谷 昭弘	私立花園中学高等学校	教諭
	佐々木 聡	金沢学院大学	講師
	横大路 綾子	京都西山高校	非常勤講師
	小寺 誠	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	馬越 靖史	京都外大西高等学校	非常勤講師
	白須 裕之	京都大学人文科学研究所	助教
	安永 知晃	関西学院大学文学研究科大学院	研究員
	松川 雅信	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
水野 杏紀	大阪府立大学	客員研究員	

	楊 冰	大阪府立大学	客員研究員
その他の学外者	村田 右富実	関西大学	教授
	住吉 朋彦	慶應義塾大学	教授
	沈 慶昊	高麗大学校	教授
	魯 耀翰	高麗大学校	研究員
	金 程宇	南京大学	教授
	王 睿	河南農業大学	講師
	唐 元	防災科技学院人文社科系	副教授
	李 日康	全清詞・光宣卷	編纂プロジェクト研究員
	庄 婕淳	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	若山 憲昭	岐阜県	職員
研究所・センター構成員 計 79 名 (うち学内の若手研究者 計 13 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2019年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	加地 伸行	大人のための儒教塾	単著	2018年11月	中公新書ラクレ		全267頁
2	桂島 宣弘	思想史で読む史学概論	単著	2019年1月	文理閣		全286頁
3	桂島 宣弘	歴史を通して「他者」と向き合う	単著	2019年1月	大陽出版		全342頁
4	花田 卓司	中近生における下野国の郡域変動	共著	2018年9月	『古代・中世の地域社会—「ムラの戸籍簿」の可能性—』、思文閣出版	大山喬平・三枝暁子編	p.176~204
5	花田 卓司	永井清繁氏の画帳の魅力—歴史学の観点から—	共著	2019年3月	解説『奈良山里の生活図誌』、帝塚山大学出版会		p.140~154
6	洲脇 武志	全譯 顔氏家訓	共著	2018年11月	汲古書院	渡邊義浩 編	p.336~342
7	高橋あやの	張衡の天文学思想	単著	2018年12月	汲古書院		全352頁
8	名和 敏光	東アジア思想・文化の基層構造—術数と『天地瑞祥志』—	編著	2019年3月	汲古書院	水口幹記他	p.304
9	高田 宗平	日本書紀神代巻における類書利用	共著	2018年4月	『日本書紀の誕生—編纂と受容の歴史—』	遠藤慶太・河内春人・関根淳・細井浩志編	p.239~272
10	佐古 愛己	官僚の出身・昇進制度の比較史的考察—平安時代と唐・宋代における五位・五品以上を中心に—	共著	2018年11月	中國社會科學院文學研究所編『多維視野下的中日文学研究』、社會科學文獻出版社		p.291~303
11	落合 淳思	漢字字形史小字典	単著	2019年3月	東方書店		全560頁
12	落合 淳思	漢字の字形	単著	2019年3月	中央公論新社		全224頁

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	杉橋 隆夫	特集テーマから「世界」	単著	2018年8月	立命館大学研究部、『RADIANT』9		p.30	無
2	杉橋 隆夫	特集テーマから「命(いのち)」	単著	2019年2月	立命館大学研究部、『RADIANT』10		p.30	無
3	芳村 弘道	明鈔本『古今歳時雜詠』考	単著	2018年5月	『學林』、第66号		p.18~58	無
4	芳村 弘道	「董康九卷本『書舶庸譚』譯注(九)」	単著	2019年3月	『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第12号		p.83~99	無
5	大形 徹	關於“有朋自遠方來”原為“友朋自遠方來”之可能性	単著	2018年7月	『中国文字研究』華東師範大学中国文字研究与应用中心《中国文字》編集部・Journal of Chinese Writing Systems 中国文字・volume2 issue2・		p.133~142	有
6	大形 徹	石垣島・タイ北部・ネパール・中国等の人々の手首にヒモを巻くことについての考察	共著	2018年9月	『形の文化研究』、形の文化会	山里純一・佐々木聡・大野朋子	p.3~15	有
7	大形 徹	《千金翼方・禁經》与日本奈良二条大路呪符木簡 共著・2018年9月	共著	2018年10月	『道教学刊』社会科学文献出版社・道教学刊、2018年第一輯・総第1期、人民大学・羅格斯大学 國際道教研討会	山里純一・佐々木聡・池内早紀子・大野朋子・董涛	p.133~148	無
8	大形 徹	“”字説「口耳の口」・単著・2018年10月	単著	2018年10月	『漢字学研究』、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、第6号		p.93~120	有

9	石井真美子	『銀雀山漢墓竹簡 〔貳〕〕 訳注 (七)	共著	2018年5月	中国芸文研究会、学林、66、	村田進、山内貴	p.155~198	無
10	石井真美子	銀雀山漢墓竹簡《地 典》译注補	単著	2018年5月	华东师范大学中国文字研究与 应用中心・华东师范大学语言 文字工作委员会主办、中国文 字研究、27	富嘉吟(翻訳)	p.169~179	有
11	石井真美子	銀雀山漢墓竹簡「地 典」譯注補	単著	2018年11月	中国芸文研究会、学林、67		p.1~24	無
12	石井真美子	『銀雀山漢墓竹簡 〔貳〕〕 訳注 (八)	共著	2018年11月	中国芸文研究会、学林、67	村田進、山内貴	p.96~119	無
13	桂島 宣弘	書評 尹海東『植民 地がつくった近代』	単著	2018年5月	『新しい歴史学のために』292 号		p.71~79	無
14	小椋 秀樹	書き言葉と話し言葉 における外来語語末 長音のゆれ	単著	2018年12月	立命館大学日本文学会、論究 日本文学、109		p.1~12	依頼
15	中本 大	誰のための「五山文 学」か—受容者の視 点から見た五山禅林 文壇の発信力	共著	2019年2月	アジア遊学、229	滝川幸司・福島 理子・合山林太 郎		無
16	富嘉吟	『白氏長慶詩年譜』 の著者李璜について	単著	2018年12月	『白居易研究年報』、第19号		p.280~300	有
17	富嘉吟	「尾張明倫堂刊本 『唐丞相曲江張先生 文集』をめぐって」	単著	2018年12月	『汲古』、第74号		p.27~33	有
18	富嘉吟	「『尾張徳川家藏目 録』所収漢籍索引」	単著	2018年5月	『學林』、第66号		p.199~210	無
19	富嘉吟・ 田中 京	『和刻本中国古逸書 叢刊』前言	共著	2019年3月	『立命館白川静記念東洋文字 文化研究所紀要』、第12号	金程宇 原撰	p.59~81	有
20	詹千慧	立命館大学「詞學文 庫」所蔵の森槐南手 識手校本『絶妙好詞 箋』について	単著	2019年3月	『立命館白川静記念東洋文字 文化研究所紀要』、第12号		p.41~58	有
21	谷 昇	近江国中世史料に見 る「村人」の存在形態	単著	2018年9月	『古代・中世の地域社会』、 思文閣出版	大山喬平・三枝 暁子ほか	p.273~301	無
22	住吉 朋彦	三井文庫編 今関田 藏本目録	単著	2019年3月	『斯道文庫論集』第53輯		p.371~454	無
23	佐藤 信弥	金文中有關軍功的釐 字	単著	2018年5月	第29屆中國文字學國際學術 研討會論文集		p.69~84	有
24	佐藤 信弥	說“禘”—從甲骨金文 的“帝”、“音”到傳世文 獻的“禘”	単著	2018年10月	世界漢字學會第六屆年會“漢 字認知工具與表意文字歷史研 究”國際學術研討會		p.98~107	有
25	花田 卓司	「ムラの戸籍簿」を 作る	単著	2018年10月	『鴨東通信』107号、思文閣出 版		p.12~13	無
26	花田 卓司	後醍醐天皇觀応の擾 乱期の恩賞宛行	単著	2019年1月	『歴史 REAL 天皇の日本 史』、洋泉社		p.88~91	無
27	花田 卓司	觀応の擾乱期の恩賞 宛行	単著	2019年3月	『日本文化史研究』、50号		p.145~157	有
28	洲脇 武志	『倭名類聚抄』所引 『漢書』注釈考	単著	2018年4月	『東洋文化』、第115号		p.14~27	有
29	洲脇 武志	(『天地瑞祥志』)第 十六 翻刻・校注— 「金」「水」—	単著	2019年3月	『東アジア思想・文化の基層 構造—術数と『天地瑞祥 志』—』	名和敏光 編	p.197~216	無
30	洲脇 武志	編譯 中國歴史文獻 學史述要—宋代の金 石學	共著	2019年3月	『大東文化大學漢學會誌』、第 58号	曾貽芬、崔文印 原著、山口謠司、 石川薫、洲脇武 志 訳	p.141~169	無
31	高橋あやの	中山城山『校正天文 訓』(第六段~第十二 段)の訳注と泊園書 院への知識の継承	単著	2018年4月	『関西大学東西学術研究所紀 要』第51輯		p.53~83	有
32	高橋あやの	『靈台秘苑』のテキ ストについて	単著	2019年2月	『天と地の科学』京都大学人 文学部文学研究所	武田時昌編	p.300~315	無
33	重信あゆみ	「バス神図像の象徴 と役割の伝播—古代	単著	2019年3月	『人文学論集』、37号		p.240~255	有

		エジプトから中国まで一」単著（査読有り）『人文学論集』、2019年3月						
34	村上 幸造	通假字を見るための上古音概説	単著	2018年10月	漢字學研究、第6号		p.121~14	有
35	名和 敏光	北京大学漢簡「摺輿」と馬王堆帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》の対比研究	単著	2018年3月	『中国出土資料の多角的研究』、汲古書院		p.323~347	無
36	名和 敏光	日本藏魏三體石經殘碑簡介	単著	2018年4月	國際尚書學會”第五屆學術研討會會議論文集、國際尚書学会		p.320~330	有
37	名和 敏光	『斷易天機』諸本簡介	単著	2018年5月	第二屆東亞易學國際研討會會議論文集、中国周易学会		p.268~277	有
38	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《徒》《天地》《女發》《雜占之二》綴合校釋	単著	2018年5月	先秦秦漢史公衆号 漢簡專号、武漢大学HP		p.1~10	有
39	名和 敏光	“皋”與“畢”	単著	2018年9月	楚文化與長江中游早期開發國際學術研討會會議論文集（下）、武漢大学		p.96~103	有
40	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》、《筮（二）》、《五行禁日》綴合校釋（修訂版）	単著	2018年10月	世界漢字學會第六屆年會議論文集、世界漢字学会		p.44~56	有
41	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釋 上	単著	2018年11月	出土文獻與中國經學、古史研究國際學術研討會會議論文集（上）、華東師範大学		p.320~332	有
42	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釋 下	単著	2018年11月	湖北出土簡帛日書國際學術研討會會議論文集、湖北省博物館		p.89~100	有
43	名和 敏光	『抱朴子』所見呪語の遡及的考察	単著	2018年11月	東方宗教、131、日本道教学会		p.1~20	有
44	名和 敏光	『後法興院記』所收勘文の佚文資料研究	単著	2019年3月	名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造—術数と『天地瑞祥志』一、汲古書院		p.105~128	無
45	名和 敏光	京都大学人文科学研究所所蔵『天地瑞祥志』第二十（後半）翻刻・校注	単著	2019年3月	名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造—術数と『天地瑞祥志』一、汲古書院		p.225~290	無
46	松宮 貴之	抗战时期郭沫若的“书法”及“文学”理论—作为郭沫若“语言”“文学”“思想”表达的“书法”样式的历史变迁	単著	2018年7月	中国《郭沫若研究》第14輯	史瑞雪译	p.141~160	有
47	松宮 貴之	一九五〇年代後期から六〇年代前期にかけての郭沫若の歴史学行政・視察旅行と詩、そして書	単著	2018年7月	有限会社アートライフ社『書法漢学研究第23号		p.24~37	無
48	松宮 貴之	郭沫若に於ける百花斉放の文学と書—百花斉放詩の書風を巡って	単著	2018年7月	《郭沫若研究会報》、第19号		p.2~10	有
49	笠川 直樹	金文通解・多友鼎	単著	2018年10月	『漢字学研究』立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所第6号		P77~p92	有
50	張 莉	従白川静博士解釋甲骨文所見祭祀的發展過程	単著	2018年4月	『漢字研究』第20輯（韓国慶星大学校韓国漢字研究所）		P.73~85	有

51	張 莉	日本における漢字認識と	単著	2019年2月	『大阪教育大学紀要』総合教育科学、第67巻		p.305～315	有
52	張 莉	白川静的中国甲骨学研究	単著	2019年3月	『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第12号		p.25～37	有
53	高田 宗平	年号勘文に引用された佚書—「経光卿改元定記」所引『修文殿御覧』を中心に—	単著	2018年5月	『歴博』、第208号		p.10	無
54	高田 宗平	国立歴史民俗博物館所蔵田中穰氏旧蔵典籍古文書『元秘抄』略解題	単著	2019年3月	『人文学論集』、第37集		p.1～12	有
55	大野 裕司	江戸時代の日選びマニユアル前田東斎『諏吉便覧指南』について	単著	2018年6月	『日本語文化研究』延辺大学出版社 5(下)	李東哲・安勇花 主編	p.245～254	有
56	大野 裕司	睡虎地秦簡『日書』詰篇にみる神・鬼・人—『日書』の担い手を探る—	単著	2018年12月	東アジア恊異学会編『怪異学の地平』、臨川書店		p.304～325	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	芳村 弘道	陽明文庫の漢籍	2018年9月	日本古文書学会、第51回大会、京都府立歴史彩館	
2	大形 徹	工具書中の熊貓	2018年10月	世界漢字学会第六屆年會、ドイツ フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン＝ニュルンベルク孔子学院	董濤
3	大形 徹	竹と獺・白熊・panda・熊貓・大熊貓・小熊貓・貓熊・大猫熊	2018年6月	照葉樹林文化研究会	
4	大形 徹	王屋山与天壇	2018年10月	清華大学 洞天福地与東亞文化意象	
5	大形 徹	唐以前の王屋山	2019年3月	専修大学 洞天福地研究会シンポジウム	
6	大形 徹	仙術：飛行する仙人	2019年3月	第14回 京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍 SEMINAR『仙という概念装置—仙薬・仙界・仙術』、一橋大学 一橋講堂中会議場 (東京都千代田区一ツ橋2-1)	
7	大形 徹	漢字の起源、甲骨・金文・篆書の成り立ち	2018年7月	福井墨書会 日本墨書会 第21回記念 教養講座：福井新聞社 風の森ホール 講義・揮毫	
8	大形 徹	大阪府立大学における中国思想研究	2018年7月	2018年度東西学術研究所第4回研究例会、関西大学 児島惟謙館1階第1会議室 日中における中国思想・儒教研究の現状と展望、東アジア宗教儀礼研究班	
9	大形 徹	道教と医学 房中術の精気と鍼灸の精気	2018年9月	茨木神社復興祈念 茨木神社 参集殿。茨木神社復興祈念講演	
10	大形 徹	關於“有朋自遠方來”原為“友朋自遠方來”之可能性	2018年10月	人民大学、宗教学術講座 人民大学、宗教学術講座、2018-22 総第220期	
11	大形 徹	辟邪絵	2019年2月	第13回市民フォーラム大阪府立大学、その1 i-site なんば	池内早紀子
12	大形 徹	ヒモを巻く呪術	2019年3月	第13回市民フォーラム大阪府立大学、市民フォーラム その6 i-site なんば	
13	萩原 正樹	日本漢学的研究現状	2018年10月	上海大学文学院講演会 上海大学文学院	詹千慧
14	萩原 正樹	日本近年来的詞学研究和日中詞学交流	2018年10月	江蘇師範大学文学院講演会 江蘇師範大学文学院	詹千慧
15	萩原 正樹	日本詞学的研究現状	2018年10月	上海大学文学院講演会 上海大学文学院	詹千慧

16	萩原 正樹	森槐南の詞学—詞の起源について—	2018年12月	第五回東亞漢籍交流国際学会議、立命館大学	
17	松本 保宣	「唐宋間的朝儀変容—对于欧陽脩説的批判—」	2018年10月	中日古代中国社会文化史学術研討会	
18	桂島 宣弘	「近世帝国」周辺部徳川日本の儒学・朱子学の動向	2018年6月	日本朱子学的伝承与创新学術研討会、中国厦門大学	
19	小椋 秀樹	近代における字音接頭辞「非・不・未・無」—『日本語歴史コーパス 明治・大正編 I 雑誌』を資料として—	2019年3月	「通時コーパス」シンポジウム2019	
20	詹千慧	立命館大学「詞学文庫」皮藏森槐南手識手校本『絶妙好詞箋』研究	2018年12月	第五回東亞漢籍交流国際学会議、立命館大学	
21	沈慶昊	朝鮮(李朝)前期における地方木版印刷の発達様相	2018年12月	第五回東亞漢籍交流国際学会議、立命館大学	
22	佐藤 信弥	礼説のはじまり—禘祭を例として—	2018年9月15日	東アジア恠異学会、第119回定例研究会	
23	佐藤 信弥	周王朝と祭祀儀礼—献捷儀礼を中心にみる—	2019年2月1日	怪異学セミナー、怪異学の地平(園田学園女子大学公開講座)	
24	佐藤 信弥	中国古文字学研究の新展開	2019年2月9日	関西漢字教育サポーターの会	
25	佐藤 信弥	中国古代史研究の最前線—近年の発見から見る文字文化の誕生と伝承	2019年3月2日	漢字教育士研修会	
26	花田 卓司	中世の合戦—南北朝内乱から応仁の乱へ—	2018年6月17日	近鉄文化サロン(帝塚山大学共催講座)、近鉄文化サロン阿倍野	
27	花田 卓司	後醍醐天皇—帰京への執念—	2018年6月25日	京都労働学校2018年度春期講座、ラポール学園京都	
28	花田 卓司	永井清繁氏の画帳の魅力—歴史学の観点から—	2018年7月7日	帝塚山大学主催特別展示「奈良学とのあい—山里に行き交う職人たち—」講演会、奈良県立図書館	
29	花田 卓司	南北朝の対立	2018年9月6日	立命館アカデミックセンターおとなの学び舎18夏「天皇の代替わり—中世日本から紐解く平成の譲位—」、立命館大阪梅田キャンパス	
30	花田 卓司	南北朝・室町時代の皇位継承	2019年1月21日	ラポール学園府市民教室、ラポール学園京都	
31	花田 卓司	南北朝内乱を彩った人びとII—楠木氏一族—	2019年1月28日	近鉄文化サロン(帝塚山大学共催講座)、近鉄文化サロン阿倍野	
32	花田 卓司	鎌倉時代の大和国平群郡飽波郷	2019年2月16日	帝塚山大学奈良学総合文化研究所「名品・名作誕生XVI」、帝塚山大学東生駒キャンパス	
33	花田 卓司	南北朝内乱を彩った人びとII—新田義貞—	2019年2月25日	近鉄文化サロン(帝塚山大学共催講座)、近鉄文化サロン阿倍野	
34	花田 卓司	南北朝内乱を彩った人びとII—足利義詮—	2019年3月7日	近鉄文化サロン(帝塚山大学共催講座)、近鉄文化サロン阿倍野	
35	高橋あやの	『霊台秘苑』の比較研究	2019年3月10日	東京ミーティング2019.3、大東文化大学	
36	高橋あやの	中国の宇宙論について	2019年3月23日	紅樓夢研究会、日本大学	
37	洲脇 武志	許懋の「封禪停止に関する建議」について	2018年6月	六朝学術学会 第22回大会(二松学舎大学)	
38	洲脇 武志	王儉の学術	2018年11月	無窮会 東洋文化談話会発表大会(和光大学ポブリホール)	
39	名和 敏光	日本藏魏三體石經殘碑簡介	2018年4月28日	國際尚書學會”第五屆學術研討會、於甘肅省蘭州市西北師範大学	
40	名和 敏光	『斷易天機』諸本簡介	2018年5月27日	第二屆東亞易學國際研討會、於山東省山東大学	
41	名和 敏光	新出土医史籍をめぐる二、三の考察	2018年6月15日	日中医学史セミナー2018 in Kyoto—伝統医療文化の問題圈、於京都大学人文科学研究所	
42	名和 敏光	全体コメント	2018年8月24日	第一屆“出土文献与古代文明：新視野下的早期中国史”青年学者研討会、於清華大学	

43	名和 敏光	総合司会	2018年9月8日	国際シンポジウム『『天地瑞祥志』を中心とした前近代東アジア思想・文化の総合的研究』、於山梨県立大学	
44	名和 敏光	“皋”與“罽”	2018年9月15日	楚文化與長江中游早期開發國際學術研討會、於武漢大学	
45	名和 敏光	書道：秦漢の古文字を書いてみる（出土簡帛研究最前線）	2018年9月28日	人文研アカデミー2018「芸の伝統と学問：中国ユネスコ無形文化遺産」、於京都大学人文科学研究所	
46	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《雜占之六》、《築（二）》、《五行禁日》綴合校釋（修訂版）	2018年10月6日	世界漢字學會第六屆年會、於Konfuzius-Institut Nürnberg-Erlangen	
47	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釋 上	2018年11月2日	出土文獻與中國經學、古史研究國際學術研討會、於華東師範大学	
48	名和 敏光	馬王堆漢墓帛書《陰陽五行》甲篇《堪輿》綴合校釋 下	2018年11月10日	湖北出土簡帛日書國際學術研討會、於湖北省博物館	
49	名和 敏光	古記録所見の勘文と『天地瑞祥志』佚文	2019年3月10日	京都大学人文科学研究所東京ミーティング2019、於大東文化大学大東文化会館	
50	松宮 貴之	「古代中国に於ける「墨」字の意味変遷と、その原義についての一試論」	2018年10月	漢字学研究会	
51	張 莉	關於日本的漢字教育	2018年8月22日	人文韓國 PLUS (HK+) 事業團開業慶典 研討會（韓国慶星大学漢字研究所）	
52	張 莉	日本書写・書道教育的現状	2018年10月3日	中国華東師範大学（中国文字研究與応用中心研究会）	
53	張 莉	日本漢字認識與教育的課題	2018年10月6日	世界漢字学会第6回年會（ドイツニュルンベルク孔子学院）	
54	張 莉	日本仏典漢字文献及芸術資料の保存状況	2019年1月30日	華東師範大学プロジェクト研究会（中国海南島渡假村）	
55	張 莉	古代の民俗の中で蘇る文字	2019年3月28日	「文字文化」研究会（書道美術新聞社）	
56	高田 宗平	国立歴史民俗博物館所蔵田中穰氏旧蔵典籍古文書『元秘抄』簡介	2018年10月20日	「日中の思想と文化」総合学会議、北海道大学人文・社会科学総合研究教育棟	
57	高田 宗平	《弘決外典鈔》所引《孝經述議》与京都大学附属図書館所蔵《孝經述議》卷四浅析	2018年12月9日	“中国的經学与日本的經学”國際學術研討會、中央大学駿河台記念館	
58	佐古 愛己	美福門院と八条院一女院と莊園—	2018年5月21日	ラポール学園 2018 年度春期「人物から見る京の歴史<古代・中世編>」	
59	佐古 愛己	朝覲行幸にみる天皇と儀礼	2018年6月16日	平成 30 年京都女子大学宗教・文化研究所公開講座シリーズ「東山から発信する京都の歴史と文化」	
60	佐古 愛己	讓位と院政の開始・展開	2018年11月26日	ラポール学園 2018 年度第 3 期 記念講座「今上天皇退位に向けて（古代・中世）天皇の讓位と新時代」	
61	落合 淳思	甲骨文字の特殊性	2018年5月26日	東京外国語大学アジア・アフリカ研究所、同マルチメディア会議室（304）	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第五回東亜漢籍交流國際學術會議	衣笠キャンパス 存心館	2018年12月	70名	南京大学域外漢籍研究所、高麗大学校漢字漢文研究所
2	朝鮮渡り唐本と和刻本漢籍詩文集の調査報告会	衣笠キャンパス 中国文学・思想専攻共同研究室	2019年3月	8名	
3	中国古代文字研究の最前線	衣笠キャンパス	2019年2月	40名	白川静記念東洋文字文化研究所
4	漢字学研究会	大学コンソーシアムキャンパス プラザ京都	2018年4～7、9～10、12月、2019年1～2月	10名前後	漢字学研究会
5	『賀茂旧記』輪読会	衣笠キャンパス	2018年4月～2019	平均7名	

		究論館	年3月		
6	国際シンポジウム「儒教文化とトランスネーション」	衣笠キャンパス	2019年1月	約30名	韓国全州大学校韓国古典学研究所
7	国際シンポジウム「共時的時空間としての東アジア」	衣笠キャンパス	2018年10月	約30名	韓国高麗大学校 BK21+事業団、京都市科歴史部会
8	国際シンポジウム「日中思想史学研究の新動向」	衣笠キャンパス	2018年10月	約20名	
9	合同学術大会	韓国済州大学校	2018年8月	約30名	韓国済州大学校宗教社会学研究室

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等		研究期間
1	杉橋 隆夫	神器不帯天皇・後鳥羽の苦悩と承久の乱へ万能の君主の誇りと失敗～	第11回千里山サイエンスカフェ、千里山コミュニケーションセンター		2018年6月2日
2	杉橋 隆夫	後鳥羽天皇の光と影	立命館アカデミックセンター「大人の学び舎」、立命館大阪梅田キャンパス		2018年8月30日
3	杉橋 隆夫	白川静の業績と立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所	韓国・慶星大学校、韓国漢字文化研究所		2018年11月13日
4	杉橋 隆夫	親政と院政、武家政治	ラポール学園、府市民教室		2018年12月17日
5	杉橋 隆夫	白川静の学問と研究所の活動	韓国・全州大学校、韓国古典学研究所		2019年1月28日
6	大形 徹	ネーミングバラエティー 日本人のおなまえっ！【船の〇〇丸の謎】	NHK		2018年9月12日
7	大形 徹	照葉樹林文化研究会 2018 大阪	大阪府立大学		2018年6月
8	松本 保宣	「唐代聴政制度の変容と特色」	広州大学人文学院致知講壇第七期《唐宋話你知》		2018年10月29日
9	桂島 宣弘	画期としての光格天皇	歴史講座、京都ラポール学園		2019年2月
10	桂島 宣弘	天皇制の過去と現在	特別講演会、韓国東西大学校		2019年3月
11	佐藤 信弥	学界展望（哲学）二、出土文字資料	日本中国学会報 70 39-41		2018年10月
12	佐藤 信弥	二〇一六年 古文字学論著目	漢字学研究 (6) 159-173		2018年10月
13	佐藤 信弥	Book Review 「宮崎史学」の達成と課題を読み解く[井上文則著 天を相手にする：評伝 宮崎市定]	東方 (456) 32-35		2019年2月
14	佐藤 信弥	殷の言語と周の言語は異なるか	桐壘 大東文化大学書道研究所報 (10) 2-2		2019年3月
15	松宮 貴之	「現代における「書作」「歴史研究」「作品鑑賞」の結びつき-台湾の実力派書家 呉國豪氏に聞く」	株式会社 芸術新聞社「墨」第43巻第2号 (通巻第251号)		2018年4月
16	松宮 貴之	日下部鳴鶴「東洋人としての正しさの追求」	『墨』芸術新聞社、251号		2018年4月
17	松宮 貴之	甲骨文「殷墟簡牘の幻視」	『墨』芸術新聞社、252号		2018年5月
18	松宮 貴之	逸勢「長安からの春風」	『墨』芸術新聞社、253号		2018年7月
19	松宮 貴之	竹簡・帛書「漢隸という結実」	『墨』芸術新聞社、254号		2018年9月
20	松宮 貴之	北島雪山「書を道にした時代」	『墨』芸術新聞社、255号		2019年11月
21	張 莉	書にまつわる漢字②	随風会（京都市立美術館）		2018年4月8日
22	張 莉	古俗の中で蘇る漢字―「西 双 版 納」倭人の源流を訪ねて―	儀礼文化講座（儀礼文化学会）		2018年5月13日
23	張 莉	聴覚と視覚に関わる漢字	朝日カルチャー講座（朝日カルチャー中之島）		2018年8月21日
24	張 莉	玉磨かざれば光なし	朝日カルチャー講座（朝日カルチャー中之島）		2018年11月20日
25	張 莉	「玉」と「石」	随風会（難波市民学習センター）		2018年12月9日

25	張 莉	「六書」に基づく漢字学	朝日カルチャー講座(朝日カルチャー中之島)	2019年2月5日
26	張 莉	「西 双 版 納」の旅	暮らしいきいき講座(神戸新聞文化センター)	2019年3月18日
27	名和 敏光	国際シンポジウム『『天地瑞祥志』を中心とした前近代東アジア思想・文化の総合的研究』(第62回天地瑞祥志研究会)	山梨県立大学	2018年9月8日
28	名和 敏光	第58回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年4月21日
29	名和 敏光	第59回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年5月20日
30	名和 敏光	第60回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年6月17日
31	名和 敏光	第61回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年7月15日
32	名和 敏光	第63回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年9月16日
33	名和 敏光	第64回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年11月18日
34	名和 敏光	第65回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年12月16日
35	名和 敏光	第66回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年1月13日
36	名和 敏光	第67回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年2月17日
37	名和 敏光	第68回天地瑞祥志研究会	大東文化会館	2018年3月17日
38	佐古 愛己	朝観行幸に関するインタビュー記事「皇室:上皇誕生、儀礼どうなる 識者注目、二つの権威? 先例か、新たに作るか」	毎日新聞 京都版	2018年12月22日

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当なし					

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	大形 徹	タマシイの観点からみた中国を中心とする東アジア辟邪文化の総合的研究	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
2	大形 徹	中国道教における聖地と巡礼に関する総合的調査と研究	基盤研究(B)	2016年4月	2019年3月	分担
3	大形 徹	伝統的文化を背景とした植物利用が地域性の形成と地域環境に与える影響に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
4	萩原 正樹	『詞律大成』の総合的研究	科研費基盤研究(C)	2017年4月	2019年3月	代表
5	桂島 宣弘	東アジア翻訳語ネットワークと近代史学史に関する思想史的研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
6	小椋 秀樹	書き言葉コーパスと話し言葉コーパスとを活用した外来語表記のゆれの研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表
7	金津日出美	帝国日本を移動する社会的弱者の救済に関する思想史的研究	研究活動スタート支援	2017年8月	2019年3月	代表
8	富嘉吟	松崎謙堂の漢籍享受と漢籍出版に関する研究	科研費若手研究	2019年4月	2021年3月	代表
9	高橋あやの	東アジアにおける天文占知識の形成と伝播	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
10	洲脇 武志	前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝	基盤研究(B)	2016年4月	2019年3月	分担

		播・展開に関する学際的研究				
11	名和 敏光	中国古代の陰陽五行一占と科学の成立一	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
12	名和 敏光	年号勘文資料の研究基盤の構築	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	分担
13	名和 敏光	前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究	基盤研究(B)	2016年4月	2019年3月	分担
14	高田 宗平	日本中世漢学史の包括的把握への基礎的研究	若手研究(B)	2016年4月	2020年3月	代表
15	高田 宗平	年号勘文資料の研究基盤の構築	基盤研究(B)	2015年4月	2019年3月	分担
16	落合 淳思	甲骨文字から楷書に至るまでの漢字の歴史的機能変化	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	杉橋 隆夫	第五回東亜漢籍交流国際学会議	一般財団法人 橋本循記念会 研究交流活動助成	2018年6月	2019年3月	代表
2	富嘉吟	和刻本唐人総集の総合研究	ヒロセ国際奨学財団第4回研究助成	2017年5月	2019年3月	代表
3	名和 敏光	『天地瑞祥志』を中心とした前近代東アジア思想・文化の総合的研究	公益財団法人高橋産業経済研究財団 助成金	2016年4月	2019年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								